

2005年3月4日  
住友化学株式会社

## 週刊誌「AERA」の記事（2005年2月28日発売）に対する当社見解

2月28日発売の週刊誌「AERA」において、当社スミチオンを含む有機リン剤のラジコンヘリ散布により、周辺住民に有機リン中毒患者が発生しているとの記事が掲載されました。当社といたしましては、同記事執筆にあたって、「AERA」誌記者から取材を受け、また事前に書面にて詳細な資料を含む情報を提供いたしました。それらが十分に考慮されることなく、科学的に立証されていない情報や推論に基づき、センセーショナルな表現・内容で記事が掲載されたことは、大変遺憾であります。

当社スミチオンを含め、日本において登録されている農薬の安全性については、国際的な基準で科学的に評価されており、空中散布に使用される農薬についても、周辺住民の健康を保護する観点から大気中の基準値が環境省により定められ、それを遵守している以上、安全性は確保されております。従いまして、スミチオンは製品ラベルに記載された使用基準等に従い、適正に使用していただければご使用いただく方、消費者の皆様、周辺住民の方々の健康に悪影響を及ぼすことはないかと判断しております。

当社が「AERA」誌に対して指摘した事実を改めてここにご説明いたします。

なお当社といたしましては、もし健康問題があるのであれば、関係者が科学的に究明してその真の原因を除去しないと問題解決にならず、当社としてもそのための協力は惜しまないと考えておりますことを、念のため申し添えさせていただきます。

### 記

#### 1. 空中散布されるスミチオンの安全性について

- (1) 空中散布に使用される農薬については、周辺住民の健康被害を未然に防止する観点から、各種毒性試験成績を基に適切な安全域を見込んだ大気中の基準値（気中濃度評価値\*）を環境省が設定している。

\* 「航空防除農薬環境影響評価検討会報告書（平成9年12月、環境庁）」

- (2) スミチオン空中散布後の気中濃度測定結果は多数報告されており、散布区域周辺のみならず、散布区域内においても平均気中濃度\*\*は環境省が設定した基準値の範囲内であることが確認されている。

\*\*日本農薬学会誌 28, 392-396

- (3) 空中散布（ラジコンヘリを含む）により散布される散布液は、地上で散布される散布液とほぼ同等の平均粒子径であることは既に報告\*\*\*されており、ラジコンヘリの散布液が他の散布方法の散布液に比べ、人への影響をより強く惹起すると取れる表現は適切ではないと考える。

\*\*\*「農薬概説(2003年版) 社団法人 日本植物防疫協会」  
「農薬散布におけるドリフトの環境リスク管理(2004年)  
独立行政法人 農業環境技術研究所編」

- (4) 定められた基準に従ってスミチオンを散布した場合に、周辺住民の方々に神経・精神障害が発生することを示すデータは、科学的な文献等においても報告されていない。

2. スミチオンの ADI（1日許容摂取量）について

日本におけるスミチオンの ADI は国際的な評価（JMPR\*\*\*\*）と同じ ADI 「0.005mg/kg 体重/日」になっている。

\*\*\*\* JMPR(国連食糧農業機関(FAO)と世界保健機構(WHO)との残留農薬に関する合同評価会議、2000年)

3. 13有機化合物の室内濃度指針値について

13有機化合物の室内濃度指針値は、当該物質の固有の毒性データ等に基づいて設定されているものである。事実、これらの物質の指針値は1マイクログラム/立法μから3,800マイクログラム/立法μと多様である。したがって、フェントロチンと全く毒性データの異なる2種の有機リン系殺虫剤の指針値とフェントロチンの測定値を単純に比較しその安全性を議論することは全く意味をなさず適切ではないと考える。

以上